

固定架台と可動式架台の月別太陽光発電量 (江別市での実験結果から推計、単位・kwh)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
固定(75度)	65	83	109	86	78	68	67	69	77	75	46	46	869
固定(90度)	63	79	101	72	59	50	51	54	64	66	42	43	744
可動式(20、60度)	65	84	114	107	120	110	105	98	92	80	48	46	1,069

※可動式は4-9月は20度、それ以外は60度に設定

道外と変わらぬ発電量実証

北海道経済産業局は、ほくでんエコエナジーと共同で取り組んだ「積雪の影響を受けない太陽光発電システムの開発・実証事業」の結果をまとめた。パネルの傾斜角について、集合住宅などの外壁に設置するペランダ型の場合は75度か90度、地上設置の可動式架台の場合は、4-9月は20度、冬場を含む10-3月は60度にする。発電効率が良いことを確認。年間を通じて、道外と変わらぬ電力量が得られるとの結論に至った。可動式架台の設置コストは、固定架台の2割増しに抑えられることも実証した。

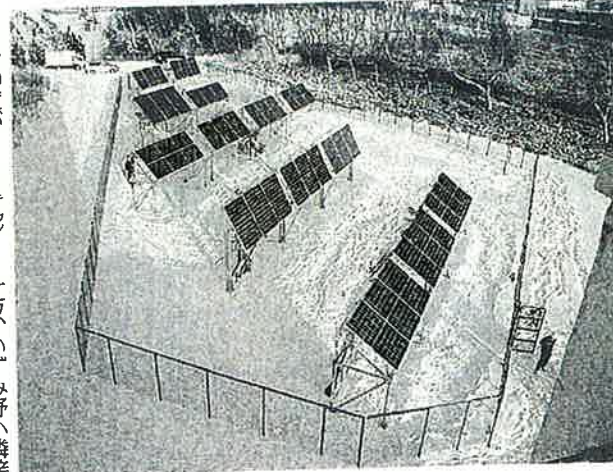
事業は、経産局の委託を受けたほくでんエコエナジーが、ことし1月と2月に江別市内で実施した。市役所庁舎の南側壁面に、75度と90度の2タイプのペランダ型パネル

道経産局、ほくでんエコエナジーなど実証結果

えられる可動式架台と、33度、45度、55度、65度の固定架台パネルをそれぞれ設け、発電量を調べた。ペランダ型は北弘電社(本社・札幌)、可動



江別市役所では75度と90度の2タイプのパネルで実験した



いずみ野小(江別)隣接地に設置した可動式架台と固定架台

式架台などは北海道電気工事(同)が設置した。市役所庁舎の実験で得られた発電量は、75度の場合で1月が66kwh、2月が80kwh、90度の場合で1月が67kwh、2月が78kwhとなった。この結果から年間の発電量を推計すると、75度

では869kwh、90度では744kwhに達し、積雪寒冷地の道内であっても、同様の条件で東京、広島に設置した場合と同等か上回る発電量になることが分かった。東京の年間発電量は75度で845kwh、90度で702kwh、広島は75度が908

一方、いずみ野小隣接地での実験では、冬場は傾斜角を45度以上にすると、積雪の影響を受けにくいことが判明。この結果、可動式架台が発電効果を考えて最適で、季節に応じた傾斜角を変えられることで、東京や広島に見劣りしない年間106

9kwhの発電量が得られると推計した。1基の設置コストは、固定架台(33度)より60万円ほど高い435万円。固定架台の2割増しとなる計算だ。CO2の大幅削減を目指す国の施策を背景に、太陽光発電に対する関心は道内でも急速に高まっているが、冬場の積雪に見舞われる道内は、道外に比べて発電効率が良くないと見方が一部にあった。経産局では、今回の実証によって道内外で年間発電量に差異はないことが確認できたことの見方から、「札幌を中心に道内各地でセミナーなどを開催し、中小の工務店に対して実証結果を広く周知したい」と(環境・リサイクル課)と説明。積雪の影響を受けにくい架台の設置方法など、施工技術に関する事項も併せて周知する方針だ。

ついでに「既存の単独槽を積極的に更新しよう」という動きは、活発とはいえない(「道環境生活部」状況だ。補助は、循環型社会形成推進交付金事業の中で、低炭素社会対応型浄化槽整備推進事業として2010年度から2カ年、全国で適用される。これまでではモデル事業

広報部長の上野豊之氏が基調講演。慶応大大学院教授の林美香子氏がコーディネーターを務め、有識者4人がパネルディスカッションをする。道農政事務所と道、中小企業基盤整備機構北海道支部が共催する。定員は150人。無料で参加できる。農業の新たな担い手と

道とJSTが21日に科学技術週間セミナー

道と独立行政法人科学技術振興機構(JST)は、21日午後2時からKKRホテル札幌で「科学技術週間セミナー」北海道2010」を開催する。道内の22試験研究機関が集まり1日に発足した道立総合研究機構理事長の丹保憲仁氏が基調講演する。道とJSTは、道内経済の活性化と産業振興を図るための連携協定を05

年10月に締結。以来、経済への寄与を目的とした研究開発に共同で取り組んでいる。セミナーは、12日から18日までの科学技術週間を記念して実施。丹保氏の基調講演のほかに、北大特任教授の五十嵐靖之氏ら3人が、科学技術に関するこれまでの研究成果を発表する。セミナーは定員150人で参加無料。終了後の交流会に参加する場合は3000円が必要となる。参加申し込みと問い合わせは道総合政策部科学技術振興課、電話011(204)5126まで。

最優秀作1点(賞金5万円)と、優秀作2点(賞金各3万円)を選びます。奮って応募ください。締め切りは4月9日(郵便は9日付消印有効)。入選作の発表は4月下旬の予定です。あて先は、郵便番号060-08790 郵便事業札幌支店 私書箱第一八八号 全標語係

メールアドレスはansensensin.jp

北海道建設新聞社